

村上春樹著「夢を見るために毎朝僕は目覚めるのです」(村上春樹インタビュー集 1997～2011)文春文庫、文藝春秋社、2012年9月10日刊を読む

走ることと書くこと

——走ることと書くことは、どう関係していますか？

大きな作品を書きたければ、肉体的に強くないではなりません。

『1Q84』を書くのには3年かかりました。

僕は毎日6時間、午前中に執筆をしました。

これはかなりきついものです。

1日に5時間から6時間、集中し続けなくてはなりません。

それを毎日、3年間です。

疲れるに決まっています。

疲労困憊して当然です。

それをやり通すには、肉体的に強くないではなりません。

そして肉体を鍛えたいのであれば、運動をする必要があります。

それはまったく自然なことです。

それで僕は走ったり泳いだりするのです。

ちょうどコインの裏表のように、精神的な強さと肉体的な強さというものがあります。

ある人が精神的にだけ強いとか、肉体的にだけ強いとか、そういう場合もあるかもしれません。

でももし作家になりたいのであれば、どちらも必要なのです。

僕はこれまで30年以上走り続けてきて、30年以上書き続けています。

これまでは運動なんかしない作家の方が大半だったでしょう。

ドストエフスキーもそんなに運動しなかったでしょうし(笑)。

でもそれは19世紀のことです。

今は21世紀で、そのころとは違いますからね。



P556～557

[コメント]

私が、村上春樹氏が大好きなのはこのような「まじめさ」だ。1日に5～6時間集中し続けて、3年間かけて長編小説を執筆するには、精神的な強さと肉体的な強さが必要。そのために走り続ける。この「まじめさ」が大好きだ。大いに学びたい。

— 2014年1月24日 林 明夫記 —